



クラブ 会報

CLUB BULLETIN (WEEKLY)

鶴岡ロータリークラブ

TSURUOKA ROTARY CLUB

D-253

創立 1934.6.9
承認 1934.6.27

例会場 鶴岡市馬場町 物産館3階ホール
例会日 毎週火曜日 12:30～13:30
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内
電話 0235 (2) 7711

会長 嶺 岸 光 吉
幹事 佐藤 村 徳 衛
会報委員長 小池 繁 男
西海 正 治
佐藤 一 昇

No., 1080 1980. 11. 4 (火) (雨) No., 18

ビジター紹介

阿部光男君 塗 装 林 権之助君 電気機器販売 }
佐藤 拓君 小児科医 加藤重郎左衛門君 林 業 } 鶴岡西R.C
松田善三郎君 製 麵
滝 禅源君 仏 教 池田好雄君 僧 侶 一立川R.C

◆ 誕生祝

- ◎ 会員誕生 藤川享胤君、風間慶三君、中村富昭君、佐藤衛君、鈴木善作君、丹下誠四郎君
- ◎ 奥様誕生 早坂さえ様(源四郎)、小松久子様、菅原和子様、菅美千代様、丹下せい子様、横田路子様

◆ 皆出席表彰

- ◎ 年間皆出席
18年間皆出席 新 穂 光一郎君 2年間皆出席 藤川享胤君
10月 300%出席 1名 石 黒 君 10月 170%出席 1名 張 君

TAKE TIME TO SERVE

時間を捧げよう 奉仕のために

10月 150%出席 1名 高橋(良)君

10月 100%出席 49名

秋野君、阿蘇君、阿部(与)君、藤川君、早坂(源)君、飯白君、今野君、石井君、石川君、板垣(俊)君、板垣(広)君、市川君、風間君、川村君、黒谷君、小林君、三浦君、三井(徹)君、三井(賢)君、三井(健)君、嶺岸君、迎田君、本山君、森田君、中江君、西海君、野村君、小野寺君、斎藤(利)君、佐藤(昇)君、佐藤(忠)君、佐藤(順)君、佐藤(衛)君、佐藤(友)君、横田君、新穂君、菅原君、菅君、鈴木(善)君、鈴木(弥)君、高橋(正)君、高岸君、丹下君、手塚君、富樫君、上野君、内山君、山口君、吉野君

◆ 会長報告・定例理事会

- ◎ 11月7日～15日までの期間ロータリー財団週間
- ◎ 11月25日例会は年次総会に切替え、次期会長エレクト、副会長の選任方法についてご審議願いたいと思います。
- ◎ 会員池田弘君の所属委員会S.A.Aに決定致します。
- ◎ 11月8日、9日の2日間に亘って、今年度青少年委員会の計画で金峰少年自然の家宿泊訓練実施を計画されましたが、三校の不参加のため今回は中止と決定致しました。ロータリーの親切な心が裏目にでることも考えられます。希望された子供達の小さな心に傷をつけたように思います。参加の児童にノート1冊を上げることに致しました。
- ◎ 11月7日、8日鹿児島より盟約10周年式典に、鹿児島西R.Cの柴山先生が来鶴されます。式典後懇親会を持ちたいと思いますので多数ご参加願います。
- ◎ 10月31日阿部与十郎のホテル新館の竣功式にご招待受け出席致しました。430名の収容出来る近代的なホテルでございました。阿部さんお目出度うございます。

幹 事 報 告

会報到着 — 余目、立川R.C

例会変更のお知らせ

酒田R.C 11月12日の例会は月見の句会のため PM 5:30

寄鴨亭、尚短冊、筆は準備

温海R.C 11月10日の例会 温海町木野俣なめこ園 PM 2:40集合

例会は野尻文作氏宅で3時点鐘

委 員 会 報 告

国際奉仕委員会 台中港区R.C訪中実行委員会委員長 迎 田 稔 君

お手許に配布してございます台中港区表敬訪問ご旅行のご案内でございますけれども、このプランは内山君、高岸君が中心になって作られたものでございます。スケジュールの詳細が載っております。それでパスポート等その他の手続は高岸君の方で全部作って下さるそうですのでスケジュールをご覧になって多数ご参加下さるようお願いいたします。

年内に受付を終らせるよう予定しておりますのでどうぞ宜しくお願いします。

◆ 会員スピーチ

藤川 享 胤 君

本日は布施と云うお話を致したいと思ひます。

布施と申しますと皆様はすぐお布施であるなどお思ひになると思ひます。お布施と云うものも布施行のひとつであります。決して私共の世界で云う布施行の全てではないのです。私共がお釈迦様であるとか、私共の世界で云うと道元禅師の教えを皆様にお説き致すこれを法施と云ひ、法の施しと書きまして法施と申します。

それに対して皆様がお包み致しますいわゆるお布施と云うのが財施と云ひまして財の施しと書きまして財施と云ひます。その法施と財施と布施行には今ひとつ大事な布施行がございます。私にはお金も物もない、ましてや法を説く力もない、されども我身、我この体でなんらかの形で社会にそして人の為に役立ちたいとそう念じ、そう行じている布施行でこれを無畏施と云ひます。

この法施、財施、無畏施の3つの布施行を行わずに忘れてならない大事な心がまえ、それは布施行をする時には無所得の布施行でなくてはならないと云うことなのです。無所得の布施と申しますのは見返りを求めない布施行という意味であります。今日ボランティア活動という言葉がよく聞かれますがボランティア活動というのは無畏施、見返りを求めない本当の布施行であります。

8月31日でありましたと思ひますが日本テレビ系で愛は地球を救うという番組がありました。日本全国の子供からそして老人に至るまで、寝たきりの老人にぜひお風呂を与えて下さい、体の悪い人にはぜひ車椅子をあげて下さいと、そういう名目で全国から募金を致しておりましたが、あの募金の中にはまさに見返りを求めない真の布施行があった気がしてならないのです。子供から老人に至るまでどうぞ社会のために役立てて下さい、決して自分の名声とか、自分の地位とか、自分の財の力でもってするんじゃない、こつこつためたものをどうぞ役に立てて下さいというまさにその心が布施行の根本であるということをご皆さんに知っていただきたいということでもあります。

云ひ替えれば布施行と云うのはやってあげるということではなくてやらせていただきますというのが肝要だと思います。私共のロータリーの精神で奉仕の理想ということをご云う訳であります、決して財の力で我々がやってあげるんじゃないで私共の色々なアビリティをどうぞ社会の為に役立てて下さいと還元させる所に本当の意味でポール・ハリスの精神がある気がしてならない訳であります。そういう世界から考えればロータリーの奉仕の世界ということと私達のいう布施行というのは真の意味で一致するのではないかと思ひます。私には忘れられない布施行の思い出がありますんでそれをひとつ皆様にお話したいと思ひます。実は私の師匠というのは父親であります、もう一人私の心から尊敬するご老師がいらっしゃいます。

丁度この11月8日から24日まで山梨県の大月という所にその山の中にももちろん電気もございません、水道もありません。そこに専門道場がありまして私もそこに行かなくてはならない訳であります、そこで私共のような禅宗のお坊さんを教育していらっしゃいます野扨孝純という方がいらっしゃいます。その人のお話を致したいと思ひます。今、山梨県のお寺と申しましたが本当はこの方は静岡県のご島田市にございます官頼庵という小さなお寺の東堂様、皆様のお宅で申せばご隠居さんでございます。

そのご隠居さんでられます知る人ぞ知るいわゆる無冠の帝王と申しましょ
うか決して表の世界に出てこない真の意味での私共の世界に生きた本当の禅宗
のお坊さんでいらっしゃる。そこに私は永平寺を降りましてから、隨身と
云いまして昼夜そのご老師の側にてお仕え致した訳であります。朝は3時30
分で起きまして座禅をして朝のおつとめをしまして、ご飯は玄米のおかゆでござ
います。ご馳走はごま塩とお漬物であります。お昼は初めて玄米をたきまして、
そして先程申しましたおかずに味噌汁がつきます。夜はそれにプラスしまし
て夏であればおとうふ4分の1丁、それから油揚げと人蔘と一緒に煮ころがし
たものとか、いわゆる精進料理が一品つく訳であります。それが一年中であり
ます。非常に食べ盛りでありますし本当にお腹がすく訳であります、一年中
そういう粗末な食事に甘んじて修行をしている訳であります。

朝3時30分に起きましてからずっとご老師のそばにいる訳であります、た
とえば、どういう修行をしますかという一番最初の修行はご老師が部屋の中
に入っているとします。そして私どもは部屋の外に居ります。それでご老師が
中で“ウーン”とひとつ咳払いを致したとします。私ども外にいる連中はその
咳払いひとつで今、ご老師は水が欲しいのか、お茶が欲しいのか、用事がある
のか、それともただたんに咳払いをしたのか判からなくてはいかんのあります。
勿論はじめ行った時には判からない訳であります。ところが私の先輩とい
うのはその一つの咳払いの音の違いでお茶を持っていったり水を持っていった
り、そして又用事があるというので部屋に入ってまいります。これを私共の世界
で感応道交と申しまして、そう云うご老師様と私共の中に真の絆が出来ないと
仏道の修行の一步が始まらないとされる訳であります。それには朝起きてから
夜寝るまでまさに自分の全神経をご老師に向けなくてはいけない、本当に
一つももらさないようにご老師に全神経を与えなくてはいけないのであります。

例え ご老師が部屋の中において顔が見えなくとも、そういう絆が出来ないと
禅宗という師匠と弟子という関係が出来てこないのです、そういうトレーニ
ングをさせられる訳でありますので朝早くから起きまして、くたくたに疲れます。
そして先ほど申しましたように非常に質素な食事を致しますんで、まさに身心
共にくたくたになります。そういう私共を慰めてくれるのはご老師がお風呂に
入っている時であります。お風呂に入りますと私共は着物をはしょいまして、
そして中に入って背中を流す訳でありますご老師が湯舟の中に入るのを見測ら
って私どもは湯殿から出ましてナイクン、いわゆるふんどしであります、ふ
んどしを流し台に持って行って洗う訳であります。そのふんどしを洗っている
時が一番幸せなのであります。自分が本当に尊敬している人、本当に死んでも
いいとそう思っている方のふんどしを今、自分が洗っているという幸せ感で、
苦しい修行に耐えている訳であります。

此のお寺は島田市の丁度田んぼの真中にありまして、信者さんは約100軒足
らずの小きなお寺でございます。檀家の人はほとんど農家であります。島田と
いうところはきうりが非常に良く取れる所でありまして、檀家の人がみんな夏
になりますときうりをお寺に持って来るのであります。きうりとか、なすとか、
とまと、とかどどん持って来るのであります。とっても立派なきうりでござ
います。そのきうりを朝頂きますとご本尊様に上げましてそれを一本一本水分
が抜けないように新聞紙に包みまして、そして冷蔵庫に入れて置きます。なす
はほんの少ししか頂きませんで、どうしてかと申しますと、きうりは沢山とれ

ますんで農協へ持っていっても売れないんです。なすは農協へ持っていくと高く売れますんで、ですからお寺にはきうりは沢山持って来てなすはほんの少しなんです。お漬物としてきうりをいただきます。そして10時、3時におやつ替わりにきうりに味噌をつけていただきます。それでも余りますからお吸物にしたり、味噌汁にしたり、そうしてきうりを頂く訳であります。それでも沢山余ります。なすはと申しますと、実は私はなすが大好きなんですけどほんの少ししか頂けないものですから、それはご老師の晩のおかずであります。茹でたり、揚げたり、ごま味噌と、しその葉と一緒に混ぜたりしてご老師のお膳に付ける訳であります。部屋に入っておりますので、私共はお給仕の為に部屋に持って参ります。そして今まさにご老師がそのなすを頂こうとします。恥しい話ですが非常に質素な食事をしていますんでどうしても生つばを飲むんです。ところがその後“ウーン、うまい”とこう云われるともう自分は食べた気になる訳であります。本当に自分の尊敬する人が本当に喜んでくれたと、そう思うと自分は本当に食べたつもりになる訳であります。

そしてご老師が後でやさしくおまえたちも頂けや、とこう云ってくれます。ところが私たちは相変わらずきうりばかり頂いていた訳であります。ある時にこの寺に一人のご婦人がお参りになりました。ご主人を交通事故で亡くしまして小さな2人の子供を連れてお参りになった訳であります。ご老師と話しをなさいまして、いざ帰られる時に藤川や、このお客さんにお野菜を分けて上げなさいと云うんです。私は待ってましたとばかりに冷蔵庫にほんとに山程有りますきうりを一本一本出しまして風呂敷に包んでお渡し致しました。これは檀家の人々からいただいた新鮮なきうりでありますからどうぞ召し上がって下さい。もし、お宅で召し上がれなかったら隣り近所の方にも是非お分け下さい。そういって慇懃にお渡ししたんであります。お客様が本当にありがとうございましてそうお礼を云って帰られました。しばらくして藤川やお袈裟つけて本堂へ来いと云うんです。私はいつもつけるお袈裟をつけて坐具というものを持って本堂へまいりました。そうするとご老師が非常に厳しいお顔をしてご本尊さんに線香を上げて来いといわれたのです。私は線香に火をつけましてご本尊様へ持って行きました。坐具を開いて三拝いたしました。そしてご老師の前に行ったら、もう一度やって来いと云うんです。私共の世界でご本尊さまに対して線香を上げるというのは2通りの意味がございまして。1つはご本尊様に対するご挨拶の意味あいで、今1つは自分に何か不都合が有った場合お線香を立てていわゆるお許しを願う訳であります。この度はどうも後者のようなんです。

所が私にはそういった悪い事をしたという実感が無かった訳であります。そこでお線香にもう1本火をつけましてご本尊様に立てました。そしてもういっぺん三拝をしてご老師の前へ立った訳であります。そうしましたらご老師は私の目をじっと見ていました。そして突然私の額を“ピシッ”と叩いたのです。“藤川や人に物を差し上げる時はお前の一番大事な物を差し上げなさい、それが本当の布施ぞよ、それが仏道ぞよ。”と云われるのです。私共にとりまして一番大事なものは、それはなすでございました。しかしそのなすは私が食べたい為にとって置いたなすではない、ご老師の為に私共の質素な食生活の中からご老師のご健康を願ってとって置いたまさに大事ななすでございまして。しかし、その大事ななすを差し上げよというのです。大事だからこそ差し上げようとい

うのです。沢山あるものをやるのは誰にでも出来る。お前が持っている一番大事な物を本当に分け与えてこそ真なる布施ぞよ、とそう教えられた訳であります。

私は今でもなすを頂きます時に目頭が熱くなるのであります。ご老師に教えられた本当の意味での布施行ということ自分を問いかけている訳であります。ともすると私たちの世界の中でこうやって町の中に居て皆さんとお付合いをしていますと何時の間にかお金の価値観とか、物の価値観とかが薄れてくる訳であります。恥ずかしながら時々その量が多いとか少ないとか、何時の間にか精神がそういう毒気に冒されている自分に気付かされる時があるのです。

そういう時に私はご老師のお顔を又思い出しては自分を戒めているのであります。時々それも忘れる時がありますが、どうぞ諸先輩から色々又教えて頂きたいと思っている訳であります。

ご静聴下さいまして有難うございました。

SMILE BOX

- ◎ 亀屋ホテル新館11月1日よりオープン 阿部与十郎君
- ◎ 荘内銀行鶴岡南支店竣工オープレ 11月4日
主体工事 鶴岡建設K.K 富樫良吉君
資材納入 金屋興業 風間慶三君
- ◎ 佐藤昇建築設計事務所新築移転

出席報告

本日の出席	会員数	69名	欠席者	秋野君、池田(弘)君、早坂(徳)君、今野君、板垣(広)君、三井(徹)君、本山君、諸橋君、中江君、中野君、斎藤(利)君、笹原君、佐藤(友)君、高橋(耕)君、玉城君、上野君、渡会君
	出席数	52名		
	出席率	75.36%		

前回の出席	前回出席率	79.71%	メンバー	秋野君、風間君、川村君、黒谷君、三井(徹)君、佐藤(昇)君、玉城君、手塚君、富樫君— 鶴岡西R.C
	修正出席数	64名		
	確定出席率	92.75%		